



## 朝旅を 香川でする。



「ゲストハウスに理想の街」  
TEN to SEN Guesthouse Takamatsu

客室は、数人が相部屋で泊まるドミトリースと個室の2タイプ。



ゲストは日本人と外国人が半々。お手製の英語版-飲食店マップもある。

香川に住んで

はじめたこと



電気や水道工事を行う職人の協力で、内装は全て自ら手付けた。

2014年に兵庫県から移住してきた杉浦聡美さんは、高松のアーケード街から少し離れた路地でゲストハウス「TEN to SEN (てんとせん)」を営んでいる。  
10年ほど前に芽生えた「いつかは宿泊施設を経営したい」という思いが高

じて菓子の商品企画の仕事を選び、培ったマーケティング力を頼りに、開業に選んだ街を日本中から探した。  
その条件は3つ。女性を引き付ける観光資源があること。若者男女、誰もが好きなローカルフードがあること。大都市・中核都市から2、3時間移動でき、東京からのLCCが通っていること。  
しかし、なかなかいい土地に巡り合えず、「気分転換に、芸術祭でも見に行こう」と訪れた高松の雰囲気、「いいな」と感じた。集客に選んだ条件がそろっているのに、当時ゲストハウスはひとつもなかった。芸術祭を楽しんだ翌日からさっそく物件探しをスタート。見つかった中古のビルを、内装は自分でリノベーションして宿にした。  
2015年4月に開業し、現在まで経営は順調。生活者としても、都会過ぎず田舎過ぎない高松のほどほど感に愛着が増すばかり。自転車も10分こく範囲に何でもそろそろ街のサイズ感を楽しみながら暮らしを、友人も増えた。すると、「街中にあるといいのに、ないものを、他にも作りたくなって。高松をもっと居心地のいい街にするため、杉浦さんの夢は広がる。



杉浦 聡美さん  
緑のない高松に夫婦で移住。「好きなもので整えた空間に、同じような好みの人が集まってくれる」のが夢を語る聡美さん。

香川県に関する問い合わせ

香川県広報課 〒760-8570 香川県高松市番町4-1-10 TEL087-832-3019  
香川県のホームページ <http://www.pref.kagawa.jp/>  
新・さぬき野のページ <http://www.pref.kagawa.jp/kocho/sanukino/> (電子ブック・スマートフォン版有り)  
香川県観光事務所 〒102-0093 東京都千代田区千代田2-6-3都道府県会館9階 TEL03-5212-9100  
香川県大蔵事務所 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1-18-24クロスシティ心斎橋4階 TEL06-6281-1661



香川を旅するのなら、早起きをお勧めしたい。栗林公園は日の出とともに開園し、名物のさぬきうどんは、朝食として食べられる。朝からこれほど観光できる土地は、珍しいのではないだろうか。朝ならではの楽しみは、地元の人との触れ合いである。どこに行つても観光客は少なく、地元の人がメインの時間。観光ポスターとは違う、素顔の魅力に出合える。

# 秋の香川、朝を旅する。



香川では、ほこつとした形のいわゆるおにぎり山が多い。標高が低いので、登山道が整備された山なら、本格的な装備なしで気軽に登山を楽しめる。地元では、体力作りのために、朝、涼しいうちに山頂まで登る人も多い。

数あるおにぎり山のうち、讃岐富士とも呼ばれる丸亀市の「飯野山」はその筆頭である。田園の中に立つ姿は、香川を代表する風景の一つ。映画やドラマにも度々登場する。標高は422m。ゆつくり歩いても、1時間ほどで頂上までたどりつける。途中、いくつか見晴らしの良い場所があるので、休憩がてら景色を楽しみたい。稲穂が実る讃岐平野、金刀比羅宮のある象頭山、瀬戸大橋が見えるポイントもある。香川らしい眺めに励まされ、また登る元気が湧く。

山頂まで登り切れば、木陰が出迎えてくれる。ありがたいのは、旅元の名産品である丸亀うちわを置いてあること。使用後は元の場所に戻す善意の涼である。疲れた体に、うちわの風が心地いい。山頂の少し下には、巨石群がある。



飯野山周辺には、大昔「おじよも」という大男がいたとの伝説があり、その足跡が残る石も見どころの一つである。



## 朝の里山に登る。



頂上にある薬師堂



おじよもの足跡



頂上付近の巨石群

高松西インターチェンジの近くに「堂山」も、ハイキングを楽しむ人が多い。標高は302mで、登山道に沿って40分ほどで登頂できる。慣れていない人は、登山口にある無料の杖を使えば登りやすい。木陰に守られた道を歩き続け、視界がパツと開けるとそこが山頂。北を向けば、高松市の中心部を見下ろすことができる。その先では瀬戸内海と空が混じり合う。登山の疲れが報われる眺めである。堂山は野鳥が多い。山頂で静かに休憩していると、すぐ近くで愛らしいヤマガラスが遊び始める。



ヤマガラス



堂山頂上からの眺め





旅の朝、早めに起きて身支度を整え、わざわざ出掛けて朝食をとる。夜のご馳走とは違うおいしさを味わう。



特別な朝ごはん。



「香川に米たらさぬきうどん」は、今や当たり前になった。うどんは昼食のイメージが強いが、朝うどんもなかなかお薦めである。朝は行列が少なく、スムーズに食事しやすい。イリコが香るうどんのダシがみそ汁の代わりとなり、起き抜けの胃にやさしく染みわたる。朝うどんの中でも、朝一番、開店に合わせてゆでられる最初のうどんを「一番釜のうどん」という。釜に含まれる塩分や小麦が溶け出していないまっさらな湯だから、わずかにあっさりゆであがる。好みによるが、うどん通の中には「一番釜のうどんを狙って食べ歩く人もいるそう。夜、ご馳走をたくさん食べた翌朝には、一番釜のうどんはうつつつけである。」

## 一番釜のうどん。



高松市中央卸売市場には、毎朝、瀬戸内海で取れた魚が常時100種類以上集まる。朝5時半からセリが始まり、専門用語と「手やり」というサインで次々に値段が決まっていく。関係者以外の立ち入りは禁止だが、事前に申し込めば活気あふれる市場の様子を見学できる。「魚市場体験ツアー」なら、市場でのセリの見学の後、魚のさばき方を教わり、その魚を朝定食として食べられる。さばき方だけでなく、鮮度の見分け方や調理方法も教えてもらえるので、瀬戸内の魚のことをより身近に感じられるようになる。水揚げ状況に合わせて出荷される養殖魚のいけすやマイナス25度の巨大な冷凍室など、市場ならではの施設に入ることが出来るのも、このツアーの魅力である。見学が終わり、食堂に移動すれば、先ほどさばいた魚が調理されて出てくる。セリ落とされたばかりの抜群の鮮度、そこに自分でさばいた体験が加わり、格別おいしい朝食となる。

## セリの魚を朝食に。



花園亭の朝がゆ  
7:00~10:00  
1,300円~(前日までに要予約)  
TEL.087-831-5255

特別名勝 栗林公園  
開園時間:9月/5:30~18:30  
10月/6:00~17:30  
11月/6:30~17:00  
栗林公園観光事務所  
TEL.087-833-7411

日本を代表する大名庭園の一つ栗林公園は、日の出に合わせて開園する。早朝の園内に観光客の姿は少なく、ウォーキングを楽しむ人や、松を剪定する職人の姿が目立つ。ゆっくり散歩を楽しむなら、落ち着きのある朝が気持ちいい。

園内にある花園亭では、前日までの予約で朝がゆをいただける。名園を眺めながらの朝食は感動もひとしお。清らかな一杯を味わいながら、四季を映す美しい景観を心に留めたい。



## 大名庭園で朝がゆ。



魚市場体験ツアー  
いただきさんの海鮮食堂 TEL.087-835-4336  
大人2,500円(3日前までに要予約)

秋の香川、朝を旅する。

少量多品目生産が特徴である香川県では、たくさんの産物が収穫の秋を迎える。朝産直市場などに足を運べば、市価よりも安く、新鮮なものが手に入る。数に限りがあるので、できるだけ早い時間を狙いたい。

丸亀市の「讃さん広場」は、香川県で最大級の農産物直売所である。県内各地から産品が集まるため、店内はまさに「香川の旬」そのもの。野菜、フルーツ、米、花、加工品など、さまざまな品が所収しと並んでいる。箱売りのフルーツもあり、お土産としても利用できる。

讃さん広場  
営業時間：9:00~18:00  
定休日：水曜、年末年始  
TEL 0877-35-8333



キウイアイス

## 秋の味覚を産直で。



キウイフルーツ

香川県とキウイフルーツの関係は深く、国産キウイとして人気の「香緑」は、香川県で開発された品種である。大ぶりで賞金色をした「さねきゴールド」、甘みが強くピリピリ感が少ない「エンジェルスイート」など、香川生まれの品種は多く、いずれも秋に旬を迎える。

おいでまい

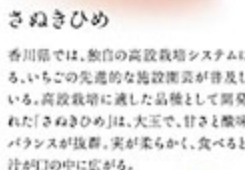
「おいでまい」は、香川県で誕生した新しいお米。温暖な気候に強く、米粒の品質が高いレベルで安定している。本格栽培が始まった平成25年度、いきなり米の食味ランキングで「特A」の評価を受けて話題となった。しっかりと食感と繊細な甘みがあり、まさに「ご飯のおいしさ」を実感できる。

## 香川のおいしい秋



柿

香川県では、100年以上前に「富有」の原木が移植され、本格的な柿の栽培が始まった。近年では新しい品種「太秋」の栽培も盛ん。スッキリした甘みと、シャキシャキした食感が楽しめる。



さねきひめ

香川県では、独自の施設栽培システムによる、いちごの先進的な施設栽培が普及している。施設栽培に適した品種として開発された「さねきひめ」は、大玉で、甘さと酸味のバランスが抜群。実が柔らかく、食べると果汁が口の中に広がる。



おばらべにわせ 小原紅早生

果皮が濃い紅色をしたみかん「小原紅早生」は、香川県のオリジナル品種。濃厚な甘みがあり、実を包む小袋(じょうのう)が薄くて柔らかいため、とろけるような食感がある。

金時にんじん

西洋にんじんと比べて、スマートなフォルム。柔らかい肉質と深い赤色が特徴の「金時にんじん」は、香川県が生産量第1位である。日本料理には欠かせない食材として、全国に出回っている。



## 本を片手に朝風呂。

仏生山温泉  
TEL 087-889-7750

仏生山温泉  
営業時間：平日 / 11:00~24:00  
土日祝 / 9:00~24:00  
定休日：毎月第4火曜  
TEL 087-889-7750

体が染み渡る。あと、食堂の冷たい飲み物が、甘露のように。



初代高松藩主・松平頼重の菩提寺である法然寺。その門前町となる仏生山は、昭和や戦前の面影を残すノスタルジックな町である。近年、ここに古民家をリノベーションした店やモダンな温泉が加わって、町並みの魅力が増している。レトロな電車、こいでんで移動して、気ままに散策するのが楽しい。

生まれ変わりつつある仏生山でランドマーク的な施設となっているのが、仏生山温泉である。土日祝は朝9時から営業している。朝風呂を満喫できる。下駄箱に靴を収め、エントランスに足を踏み入れると、欄に並んだ古本が目飛び込む。この本は、その場で購入しながら入浴できるのだ。夕方以降は混み合う人気の湯だが、朝は人もまばら。ぬめりのある重曹泉につかり、のんびり本を読んでいると、疲れもとろけていく。長湯のあと、食堂の冷たい飲み物が、甘露のように。



仏生山の町並み

法然寺



## 秋会期に登場する 四つの島々

香川県の西部に位置する島々は、  
誇り高い歴史や素朴な暮らしを守り、  
叙情豊かな表情を持つ。  
その代表となる四つの島が、  
この秋、現代アートと手を携えて、  
新たな出会いを待っている。



### 栗島 AWASHIMA

須田港(三豊市)から高速船で約15分。

スクリーンの形をしているという「栗島」は、形も自然も美しい島として知られている。日本初の海員養成学校が創設され、その校舎跡を中心に海洋記念公園が整備されている。2010年から続く日比野克彦のプロジェクトをはじめ、島の廃校などを中心に海に関わる作品が集合する。



エヌテル・ストッカー  
「Project for Awashima」

ムニール・ファトゥミ  
「道ぎらった子供達の歌」

### 本島 HONJIMA

丸亀港(丸亀市)から高速船で約20分。

塩飽水軍の本拠地であった「本島」。江戸時代には水運の要所として栄え、豊かな繁栄を物語るノスタルジックな町並みが残されている。塩飽諸島の中心であった本島では、伝統的な木造船や塩飽大工など島の文化にちなんだ作品が、歴史的な家並みとともに迎えてくれる。その歴史文化も芸術作品も、間違いなく見応えがある。



アレクサンデル・ボノマシフ  
「水の下空」

五十嵐寛規  
「そらあみ(鳥道)」

### 伊吹島 IBUKIJIMA

観音寺港(観音寺市)から高速船で約25分。

イワシ漁が盛んな「伊吹島」は、良質なイリコの産地。今なお活気ある地場産業を持つ頼もしい島である。島の言葉には日本で唯一、平安時代の京言葉のアクセントが残っているという。イワシ漁や島独特の暮らし、風俗に根ざした作品が展開される。



フィルフレド・プリエスト  
「In the silence of Buiki,  
some drops of water  
stroke me the hour」

みかんぐみ+明治大学学生  
「イリコ島」

### 高見島 TAKAMIJIMA

多度津港(多度津町)からフェリーで約25分。

かつて除虫菊の島として知られていた「高見島」。自然石の乱れ積み石垣がそびえ、浜には貴重な調子割の面影を見ることが出来る。平地が少なく、コンパクトに調子が取れた島の二つの集落。そこに、伝統的な古民家の記憶や祭り、除虫菊などを題材にした作品が登場する。



若林美「顔色の旅」

山本基「たゆたう庭」

## 瀬戸内国際芸術祭2016

Setouchi Triennale 2016

会期(秋)  
2016年10月8日(土) — 11月6日(日)30日間

開催地  
直島/豊島/女木島/男木島/小豆島/大島/  
大島/本島/高見島/栗島/伊吹島/  
高松港・宇野港周辺

作品鑑賞パスポート  
一般:5,000円  
高校生:3,500円



## 秋風をまとい アートと島文化に 出合う30日

瀬戸内海の島々を舞台に開催される  
現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2016」。  
10月8日(土)から、直島・豊島・女木島・  
男木島・小豆島・大島などに、  
新たな4島を加えていよいよ秋会期が始まる。  
第3回の瀬戸内国際芸術祭ラストの日々は、  
アート作品と共に島々の祭りや  
暮らしの歴史もたどってみたい。

さぬきの祭りとは  
海にまつわるプログラム

秋の讃岐路では、あちこちから祭りはやがやが響いてくる。ちようさと呼ばれる太鼓台やこし、神楽や獅子舞など、興味深い文化を垣間見ることが出来る。もちろん、島々でも固有の民俗を物語る秋祭りの季節である。それに加え、会期中には芸術祭ならではのイベントも展開される。

さらに、高松港周辺でも数々のイベントが開催され、フィナーレが近づくと11月3日には、8回目を迎える獅子舞王国が登場。それぞれ流儀が異なる獅子舞の団体約50組が集合し、讃岐路の風物詩を華やかに見せてくれる。芸術祭3日目の秋を惜しみながら、島々を巡り瀬戸内散歩を楽しみたい。



讃岐獅子舞保存会  
「獅子舞王国さぬき in 高松港」



ベビー・ビー  
「瀬戸内シブクー目と足をめぐる水軍の物語」(本島)



MUDA  
「MUDA 海男」(高見島)



鬼太鼓  
「音楽の心から〜瀬戸内からの鼓動〜」(伊吹島)



ととあし/totoashi  
「ドリフトライン」(栗島)



香川県知事  
浜田 恵造



を歩くと、「なるほど、ここで太郎が玉手箱を開けたのか」と思ふ。世話そのまの風景が広がります。  
**知事** 玉手箱の輝がなびいたという紫雲山や竜宮城があるという瀬戸内海と、荘内半島の風景は本当に素晴らしいですね。  
**池原** 私は今までこの風景が、どうして世に出なかったのかと不思議な感じがします。また、讃岐平野には、讃岐富士と呼ばれる美しい飯野山があります。その周辺にもおむすび山があらちちとあり、その傍らにはため池が点在しています。この風景は、全国のどこを探してもそうはないでしょう。それに、すぐ隣においしいうどん屋さんがある(笑)。  
私は師を巡るのも好きですね。志度から高松市の庵治町へと師をたどるのも心が躍ります。四国霊場の

札所でもある志度寺に残る龍神伝説も興味深いですね。香川県の西にある観音寺市から三豊市の仁尾に向かうと、ミカン畑が広がります。これも素晴らしい風景です。  
そういう懐かしの風景に対して、衝撃を受けた香川の新しい顔が壮大な瀬戸大橋でした。その建設中には、架橋の島々などを歩き、瀬戸の島々は民俗学的にも大変に貴重な文化が残されていることを知りました。  
**知事** 架橋の島である瀬石島には、県指定無形民俗文化財の「瀬石ももて祭」が伝わります。讃岐の祭りという、何が心に残っておられるのでしょうか。  
**池原** 私はやっぱり「ちようさ」、いわゆる太鼓台の芯から響き渡ります。

観音寺市豊浜の「ちようさ祭」を見ましたが、勇壮というか、豪華というか、香川県にこのようにすごい祭りがあるのかと驚きました。讃岐の獅子舞も印象的です。カキの笑が枝一杯にたわむる頃、鎮守の森から聞こえてくる鉦や太鼓の音も、讃岐の懐かしい音の風景ですね。  
**知事** 秋祭りのシーズンの10月から始まりますが、今年も芸術祭の柱の一つとして獅子舞などの伝統文化ももっと発信してまいります。そのため、「獅子舞王国さぬき in 高松港」などのイベントも予定されています。  
池原先生には、これからもぜひ讃岐の伝統文化につながる風景を描き続けていただきたいと思えます。本日は、お忙しい中、本当にありがとうございます。



## おとぎ話の聖地香川県

**知事** 香川県高松市でお生まれになった池原昭治さんは、1963年、東映動画に入社なさり、「太陽の王子ホルスの大冒険」「狼少年ケン」などで原動画を中心に担当されたといいました。「まんが日本昔ばなし」では、作画・演出・美術等を手掛けられたとのこと。ほのぼのとした作風は、温かく懐かし心に染みまします。本県の県民向け広報誌でも、表紙絵を担当していただいております。素晴らしい童話の数々が県民の皆さんにも好評です。私も毎月楽しみにしております。  
**池原** 表紙絵のお話を聞いた時は、興奮するほどうれしかったですね。今まで讃岐をあらちち歩き、描きため

たものがあります。これを発表できる、ありがたい場所を提供していただきました。  
**知事** 広報誌の表紙解説においても、香川県の思い出を語ってくださいっておりますが、民話や童話など、どのようなお話が心に残っておりますか。  
**池原** 私は文章が苦手です。絵を描くことで表現したいと、スケッチブックを持って歩き回りました。ある日、峠道で野仏を拝むお孫さんを連れとおばあさんに会いました。話を伺ったところ、地元にはタヌキの民話が伝わっているとのこと。「サヌキのタヌキ」というのは実に語呂も良く、それからは、タヌキの話ばかりずいぶん集

が立っています。  
昔話といえは、桃太郎や浦島太郎を思い出しますが、例えば、高松市の沖合に浮かぶ女木島は桃太郎の鬼ヶ島といわれ、三豊市の荘内半島には浦島太郎にもなった地名が点々とあります。まさに「おとぎ話の聖地香川県」と言いたいところですね。なんといっても、ポコポコと顔をのぞかせるおむすび山には、「まるでおとぎ話の絵のようだ」と皆さんが感心します。これも、池原さんが童話に描いてくださったおかげです。  
**池原** 「桃太郎」と「浦島太郎」が伝わる香川県は、おつしやる通り「おとぎ話の聖地」と言えますね。それぞれ、ゆかりの地名が二つや二つでなく残されているというのが正しい。特に浦島太郎伝説の地である荘内半島

童話作家  
池原 昭治

1939年香川県高松市生まれ。高校卒業後、東映動画に入社しアニメーターとして働く。テレビアニメ「まんが日本昔ばなし」では演出・作画・美術を担当。日本各地を歩き「童話」という独自の事業を確立する。2011年から香川県広報誌「THEかがわ」の表紙絵を担当。著書に「讃岐の絵本」、「カッコウの遠く結わらべのいる風景」ほか多数。日本漫画家協会会員、高松短期大学客員教授、香川県子育て心配用教員などを務める。



# 聖なる島の

四国の自然に抱かれ、  
空海ゆかりの88カ所の札所を巡る「四国遍路」  
千年を超える歴史を踏まえ、  
遍路文化は今、世界遺産登録に向けて  
大きく歩みを進めている。

# 遍路文化

世界遺産登録を目指す

## 宗教を超えた癒やしの道

「四国遍路は、四国4県に点在する88の札所を全長1400キロにも及ぶ遍路道が結ぶ大きな寺院巡り。つまり、四国そのものを聖地とした巡礼である。四国は弘法大師空海の修行の地といわれ、承和2年(835年)に空海が入定した後、修行僧らによって、その足跡をたどる巡拝が始まった。それが江戸時代には、一般民衆の信仰の対象となり、88カ所の札所が整えられ、現在では宗教を超えて国内外の多くの人々を迎えている。

千年を超える時の流れに、「修行」「信仰」「癒やし」と大きく目的は移り変わったが、現在ではその全ての思いを受け止め、国や人種を超えられた「四国遍路」を支えてきたのは、各札所の宗教的・文化的な価値に加え、さまざまな形で「遍路さん」をもてなす「お接待」であり、札所と札所を結ぶ遍路道そのものの魅力であった。それが四国に根付く「遍路文化」である。

## 四国4県官民手を携えて

この貴重な「遍路文化」を人類の遺産として残すために、四国4県が力を結集し「世界遺産登録」への歩みを進めてきた。2006年、文化庁に共同提案を行ったが、課題は文化財としての保護されていない貴重な資産を残すための施策と、その普遍的な価値を証明することであった。そこで、四国の官民が「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会を設立。学術研究や文化財調査、それに伴う保護や保存活動も着実に進め、各県それぞれ遍路道が史跡に指定されるなど成果も上がっている。

さらに、2015年には全国18遺産の一つとして第1号の「日本遺産」に認定されたほか、日本を代表する広域観光周遊ルートにも選定された。

そして、2016年8月には、20万人を超える著名とともに新たな提案書を文化庁に提出し世界遺産登録に向けて、暫定「観光」への追加記載を強く要望した。



2015年9月、真田香川県知事とフェイホー・ガリシア州首相が、「四国遍路」と世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」の交流に関する協定協定書に調印した。  
今年の2月には、2回目のスペイン・ガリシア州との協定協定締結記念国際シンポジウム「四国遍路を世界遺産に」を高松市で開催した。



## 広がる遍路の魅力

さて、二足早くに世界遺産に登録されている巡礼路といえば「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」。この道があるスペイン・ガリシア州と四国4県は、「四国遍路」世界遺産登録に向けての協力協定を締結した。これにより、数々の知恵が共有され、うれしいことにヨーロッパからの遍路も増加しているという。

特に欧米の人々にとって、回遊型の遍路道は興味深い。その道すがら体感する四国の自然や暮らし、素朴な人情は、一度限りの巡礼ではなく、幾度も訪れたい魅力を持っている。

## 世界に向けて花開く

今、世界に向けて「四国遍路」を広める活動がさまざまな団体によって行われている。その一つである日本青年会議所四国地区協議会の十河陽之助会長にお話を伺った。

「私は、四国霊場の札所の一つ志度寺の副住職であり、四国八十八箇所霊場青年会会長も務めています。そうした立場を超えて、世界の人々を迎える観光資源としても、「四国遍路」の素晴らしさを認識しています。そこで、海外でもさまざまな広報活動を行いました。例えば、今年の6月には、台湾の高雄市(カオシウ)市で四国遍路の魅力を伝える講演や「お砂踏み」体験。一方、空海修行の地でもある中国西安市においては、800万人の人口を誇る西安市の方々に「四国遍路」の誘致活動を展開しました。そうした活動により、海外の人々も「四国遍路」に並々ならぬ関心を寄せていることを実感しました。最近では、外国のお遍路さんが目立ってきましたが、今後はますます増加の一途をたどることでしょう。今年はいよいよ「逆打ち」ということで、御利益も大きいと大勢の皆さまが「四国遍路」にお越しくださっていらっしゃいます。こうして興味深いところでしょう」

「修行」「信仰」「癒やし」、そして世界の人々と共に味わう「文化的価値」や「観光面での魅力」。四国遍路の真価は、世界に向けてさらに大きく花開こうとしている。



四国八十八箇所霊場では、「四国遍路日本遺産認定記念」として、平成29年5月31日まで、旅券の授与を行う。旅券の授与に納税(有料)を行うと配布されるもので(納税をしない場合は、敬服のみ有料で販売可能)、特製旅券(有料)もあり、全てを紐付すると、美しい花のように完成する。  
問い合わせ先  
四国八十八箇所霊場事務局  
TEL 0877-56-5688

通常の「順打ち」であれば、最後となる香川県の札所を「遍路の道場」と呼ぶ。うるうるの今年、逆に回る「逆打ち」の功徳が高まるといわれ、「遍路の道場」を巡り始めるお遍路さんが多くいる。



2015年9月、浜田香川県知事とフェイホー・ガリシア州首相が、「四国道路と世界遺産」サテニアゴ・デ・コンポステラの巡礼路の交流に関する協力協定書に調印した。  
今年の2月には、2回目のスペイン・ガリシア州との協力協定締結記念国際シンポジウム「四国道路を世界遺産に」を高校で開催した。

この貴重な「道路文化」を人類の遺産として残すために、四国4県が力を結集し「世界遺産登録」への歩みを進めてきた。2006年、文化庁に共同提案を行ったが、課題は文化財として保護されていない貴重な遺産を残すための施策と、その普遍的な価値を証明することであった。そこで、四国の官民が「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会を設立。学術研究や文化財調査、それに伴う保護や保存活動も着実に進め、各県それぞれ遍路道が史跡に指定されるなど成果も上がっている。

さらに、2015年には全国18遺産の一つとして第1号の「日本遺産」に認定されたほか、日本を代表する広域観光周遊ルートにも選定された。  
そして、2016年8月には、20万人を超える著名とともに新たな提案書を文化庁に提出。世界遺産登録に向けて、暫定「発表」への追加記載を強く要望した。

## 四国4県官民手を携えて

さて、一足早くに世界遺産に登録されている巡礼路といえば「サテニアゴ・デ・コンポステラの巡礼路」。この道があるスペイン・ガリシア州と四国4県は、「四国道路」世界遺産登録に向けての協力協定を締結した。これにより、数々の知恵が共有され、うれしいことにヨーロッパからの遍路も増加しているという。

特に欧米の人々にとって、回遊型の遍路道は興味深い。その道すがら体感する四国の自然や暮らし、素朴な人情は、一度限りの巡礼ではなく、幾度も訪れたい魅力を持っている。

## 広がる遍路の魅力



「修行」「信仰」「癒やし」、そして世界の人々と共に味わう「文化的価値」や「観光面での魅力」。四国遍路の真価は、世界に向けてさらに大きく花開こうとしている。

今、世界に向けて「四国遍路」を広める活動が、さまざまな団体によって行われている。その一つである日本青年会議所四国地区協議会の十河陽之助会長にお話を伺った。  
「私は、四国霊場の礼所の二つ志度寺の副住職であり、四国八十八箇所霊場青年会会長も務めています。そうした立場を超えて、世界の人々を迎える観光資源としても、「四国遍路」の素晴らしさを認識しています。そこで、海外でもさまざまな広報活動を行いました。例えば、今年の6月には、台湾の高雄市（カオシユン市）で四国遍路の魅力を伝える講演や「お砂踏み」体験。一方、空海修行の地でもある中国西安市においては、800万人の人口を誇る西安市の方々に「四国遍路」の誘致活動を展開しました。

そうした活動により、海外の人々も「四国遍路」に並々ならぬ関心を寄せていることを実感しました。最近では、外国のお遍路さんが目立ってきました。今後はますます増加の途をたどることで、今年には「逆打ち」として大勢の皆さまが「四国遍路」にお越しくださっており、こうして興味深いところでしょう。」

## 世界に向けて花開く



四国八十八箇所霊場では、「四国遍路日本遺産認定記念」として、平成29年5月31日まで、旅券の授与を行う。旅券は納経後に納経（有料）を行うと配布されるもので（納経をしない場合は、旅券のみ有料で配布可能）、特製旅券（有料）もあり、全てを貼付すると、美しい花のように完成する。  
問い合わせ先  
四国八十八箇所霊場事務局  
TEL 0877-56-5688

- ※1 高僧が亡くなることを意味する。真言宗においては、空海は「まだ亡くならず」「入定」と表現する。
- ※2 四国八十八箇所霊場各礼所の「お砂」を踏みながらお参りすることで、実際に遍路をしたことと同じであるといわれる。四国遍路ができない人々のために、四国遍路を身近に感じていただくためのものでもある。
- ※3 「逆打ち」とは四国霊場を順に巡礼するのではなく、最終とされる第88箇所から逆順にたどること。通常のお遍路より困難とされ、それだけに御利益も大きいと信じられてきた。昔、弘法大師に会いたい一心で遍路を始めた東門三郎が逆打ちをして大勢に出会ったという伝説があり、それがうらうら年であると語られてきた。
- ※4 「数珠」とは仏教を信仰するために「蓮の花びら」を数珠にしたことに由来し、その花びらをかたどった色紙を意味するようになった。大変ありがたいもので、形を払いその場を清めるといわれている。

## (UDON県)今年の香川県はひと味違う テーマは「カッコつけます。うどん県。」

6年目となる「うどん県。それだけじゃない香川県」プロジェクトの今年のテーマは、「カッコつけます。うどん県。」訪れた方々に「香川にきてよかった。また訪れたい」と思ってもらえるよう、今年はカッコ( )つけて皆さまをおもてなししていきます。



プロモーション映像では、うどん県副知事の要潤さんが、香川漆器や丸亀うらわ、盆盆など香川にしかないオンリーワンクオリティな極上の一品を紹介。また、演出家・宮本聖門さんによる「アート編」や、うどん県副知事の本内晶子さんによる「鳥獣編」も見逃しません。アートや伝統、文化、観光など、うどんだけじゃない香川の多彩な魅力をカッコつけてPRしています。



東京でのプレス発表会

ほかにも、今年10月から日本テレビ・西日本放送ほかにてテレビアニメ化が決定している、香川県出身の篠丸のどか氏による漫画「うどんの国の金色毛鞠」とコラボレーションするなど、今後の展開に注目です。

【問い合わせ】香川観光振興課 TEL087-832-3379  
「カッコつけます。うどん県。」 <http://www.my-kagawa.jp/udon-ken/>

## アートにうどんに観光も 「うどんバス」で香川をまるごと満喫!

讃岐うどん店と観光地を一緒に巡る定期観光バス「うどんバス」。この夏、コースを一新し、さらに充実した内容で楽しんでいただけるようになりました。地元でも大人気、でも車がないと行くのが難しい、そんな讃岐うどんの名店をまとめてご案内します。併せて栗林公園や金刀比羅宮など、見逃せない観光名所もご紹介。案内人が同行しているので、讃岐うどんに関する豆知識や観光地の見どころなどを分かりやすく説明してくれます。  
平日には手軽に楽しめる平日コース（午前・午後）、土日祝日には思いっきり満喫できる一日コースを運行中。一日コースでは、香川県のアートを体感いただけます。曜日によって異なるコース内容も楽しみの一つ。食べて見て楽しんで、うどんだけじゃない香川の魅力を感じてください。



平日コース	乗車運賃	大人1,000円	小人500円
土日祝日コース	乗車運賃	大人1,500円	小人750円

【問い合わせ】琴勢バス(株) TEL0877-22-9191  
「うどんバス」 <http://www.kotosan.co.jp/sp/>

## 心を込めた特別なおもてなし 瀬戸内国際芸術祭2016「讃岐の晩餐会」を開催

今年の瀬戸内国際芸術祭のテーマの一つとなるのが「食」。栗林公園内にある木工奨励館では、ここでしか味わえない特別なひとときを楽しんでもらおうと、パフォーマンス鑑賞と食事が楽しめるツアーイベント「讃岐の晩餐会」を開催しています。



パフォーマンスを担当するのは、活動の場を世界に広げている「指輪ホテル」。一歩一歩と称される栗林公園を舞台に、その独自の世界観が花開きます。料理はEAT&ART TAROさんの監修による、瀬戸内の食材をふんだんに使用したコース料理。「瀬戸内「食」のフラム塾」の塾生との会話が、一品一品に奥深さを演出してくれます。鳥での作品鑑賞を終えた後、夕方から楽しめるのもうれしいところ。芸術祭の旗の締めくりに、心に残るおもてなしをお届けします。

秋会期 10月15日(土)、16日(日)、22日(土)、23日(日)、29日(土)、30日(日)  
11月5日(土)  
※定員は各回60人。料金は2,000円(小学生以上・お一人様)  
お申し込みは、JTB中国四国高松支店(TEL087-821-3079)

【問い合わせ】瀬戸内国際芸術祭事務局・総合インフォメーション TEL087-813-2244  
瀬戸内国際芸術祭公式ウェブサイト <http://setouchi-artfest.jp/>

## 四国初の香港路線 高松—香港線が就航しました



四国と香港を結ぶ初の定期路線として、香港のLCC(格安航空会社)香港エクスプレスによる高松—香港線が、週4往復で運航しています。「Sanuki Udon(さぬきうどん)号」と命名された機体もあり、香川自慢の県産品に思いをのせて、四国と香港をつないでいきます。

これで、高松空港へ乗り入れる国際路線はソウル線、上海線、台北線、香港線の4路線に。また、10月からはアジアグループのLCCエアソウルが就航することに伴い、高松—ソウル線が週3往復から週5往復に増便することが決定しています。四国の拠点空港として、ますます充実する高松空港の航空ネットワークに期待が高まります。

【問い合わせ】香川県交通政策課航空課 TEL087-832-3143